

第31回知床五湖登録引率者審査部会 議事概要（2019.7）

日時：2019年7月4日（木）13:30～15:30

場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

出席：渡邊・竹原（環境省）、大道（北海道）、南出・吉田（斜里町）、桑島（ウトロ自治会）、古坂（自然公園財団）、若月・岩山（登録引率者代表）、秋葉・葛西（知床財団）

概要：

審査部会長の交代が承認され、斜里町環境課長南出氏が議事を進行した。3年間の知床五湖春期利用適正化実験の実施結果が報告され、知床五湖利用適正化計画の取り扱いについて議論を行った。実験の実施結果を踏まえ、春期の利用ルールについては現行の植生保護期に据え置く方針を確認し、部会の議論結果を次回のあり方協議会へ報告することとした。

1) 部会長の交代について（●：意見、✓：まとめ）

参考資料1 知床五湖登録引率者審査部会 設置要領（2016.11改定）

審査部会長である斜里町環境課長の増田氏が異動となったため、部会長交代の発議がなされ、南出氏が互選により選出された。

2) 春期利用適正化実験の結果について（●：意見、✓：まとめ）

資料1-1 2019年度 知床五湖春期利用適正化実験の実施結果について<説明/秋葉>

資料1-2 3年間の利用適正化実験のまとめ（春期）<説明/秋葉>

資料1-3 春期利用適正化実験における検証結果および課題<説明/大道>

3年間の春期利用適正化実験の実施結果について報告され、利用者アンケート調査の結果及び評価手法が議論された。また、利用適正化計画改定の方針を決定するにあたり、その判断基準や実験の検証結果、未検証項目を含む各種課題点について意見交換を行った。

利用者アンケート調査の結果について

- 利用者アンケート調査の結果について、引率付きの実験ツアーに対し参加者より高い評価を頂けたことは引率者として有難く受け止めている。一方、五湖は知床の観光における集客拠点であることから、制度改定にあたっては利用者意識を客観的に評価する必要がある。特に、実験期間中の一般利用者にあたるツアー非参加者の意見は重要であることから、それらの調査結果の検証を丁寧に行うべき。（若月）
- アンケート調査における各設問の回答結果については、「非常にそう思う」のみの集計結果に焦点をあてるのではなく、「そう思う」や「そう思わない」といった意見の集計結果を可視化し、評価すると良いのではないか。（若月）
- 3年間のとりまとめにあたっては、回答割合の変化を認識しやすい「非常にそう思う」の回答割合を抽出し結果概要として掲載した。単年度の単純集計の結果については、別途参考資料として参照可能である。（秋葉）
- 制度改定に対する支持割合が年々増加している要因は、制度の浸透によるものと考えられるか。もしくは他に要因が考えられるか。（竹原）
- 複合的である。まず、設問の表現により回答傾向が大きく変化した。初年度調査の設問では、費用負担の増加が注目されやすく、反対意見が多かった。そのため、2年目以降は設問形式を見直し、メリットとデメリットを対比して判断できるように設問形式を見直した。また、実施時のコンディションや混雑度なども影響していると考えている。本年度においては、大型連休により小ループコースが非常に混雑したこともあり、制度改定時のメリットが受け入れられやすく、支持割合の増加に影響したのではないかと考えられる。（秋葉）
- 制度発足当初は所要時間の短い小ループを散策後すぐに園地を離れる通過型の利用者が多い印象があったが、近年は遠方より来訪し長い時間をかけて大ループを楽しみたいというニーズが増加してきている印象があり、大ループを利用できない状況に一定の不満があったのではないかと考えられる。春期に大ループのニーズがあるにも関わらず、地上遊歩道利用者全体の約9割が大ループを散策できなかった点については、現場としても改善が必要と感じている。（秋葉）
- アンケート調査の専門家からは、知床五湖の利用者意識のモニタリングにあたっては、来訪者のみならず外国人来訪者や来訪予定者の意識も重要であるとの指摘をいただいている。（秋葉）

3) 利用適正化計画（春期）の取り扱いについて（●：意見、✓：まとめ）

資料2-1 利用適正化計画の改定に関する事務局見解<説明/竹原>

資料2-2 今後の協議および作業スケジュール<説明/竹原>

3年間の春期実験の実施結果と協議会等の意見を踏まえ、利用適正化計画の取り扱いについて、春期は現行の植生保護期に据え置くことが事務局から提案された。議論の結果、事務局提案を審査部会の結論として次回の知床五湖の利用のあり方協議会へ報告することとした。また、春期の大ループの利用機会創出については、施設や運用ルール等のソフト面の改善により、供用可能性を高める努力を行うことが事務局より示された。

春期の利用期の取り扱いについて

- 春期の利用期を植生保護期に据え置くとのことであれば、一般利用における積雪の危険性や踏み外しによる植生へのインパクトが引き続き課題となる。また、実験の実施結果としては、ツアー引率により積雪下での大ループ散策を安全に行うことが可能との判断であり、制度上は植生保護期としつつ実験時と同様の条件で閉鎖状況の大ループを利用することは可能ではないか。3年間の実験において利用者より一定の評価を得られている結果も重視すべきである。（岩山）
- 実験期間中は、コース毎に異なる利用ルールを適用し、現場運用を行ったため、利用者にも運営スタッフにも混乱が生じたとの報告があった。また、制度上の整理においてもコース毎に異なる利用制度を適用することは現行では困難と考える。制度上現行の登録引率者は、ヒグマ活動期の引率者という位置付けであり、植生保護期の閉鎖コースに特別に立ち入れるような柔軟な仕組みにはなっていない。（竹原）
- 春期を植生保護期としながらも積雪下の大ループのみ安全対策のためツアー限定利用とする方向性を地域に提案し、協議していく方向性も考えられたのではないか。（岩山）
- 登録引率者の同行が必須である根拠をヒグマの安全対策とする現行の制度下では、積雪時の安全対策のために引率者の同行を必須とすることは困難である。そのため、利用期は植生保護期としつつ、遊歩道の再整備による施設面の改善や長靴着用のルール整備といったソフト面の改善により、大ループの利用を早期化する方向性が考えられるのではないか。（渡邊）
- 両期混在といった柔軟な現場運用が困難であることは、法制度による運用のデメリットとも思われがちである。しかし、制度開始以降、一貫した方針と法担保をもって運用実績を積み重ねてきたことにより、利用者や地域の信頼、ブランディングが進んできたとも考えられ、これらを軽視すべきではない。現場の都合や運用レベルで利用ルールの根幹を安易に変更すべきではない。（秋葉）
- 事務局より提案のあった制度外での取り組みによって大ループの利用機会を拡大するアイデアは重要である。春期の連休期間においては交通渋滞やアクセス面での課題があることから、知床自然センターなどでの長靴レンタルとシャトルバス運行を組み合わせるなどして、各種課題を包括的に解決することができるのではないか。（秋葉）

- ヒグマ活動期以外でもガイドツアーの潜在的なニーズは非常に高いと考えられる一方、ガイドツアーの間口は狭いため改良が必要と考えている。ガイドツアー利用の間口を広げることで、将来的には通年植生保護期のもと積雪やヒグマへの対処のため利用者がガイドツアーを選択できるような環境整備がなされてもよい。（秋葉）
- 実験の結果から、4月と5月では気候や環境が大きく異なることが明らかとなった。4月は気候や積雪により利用環境は厳しく、早期に大ループを開放するのが困難であるが、融雪期にあたる5月においては、早期から大ループを利用できる仕組みづくりは可能ではないか。（秋葉）
- ✓ 本年度の利用適正化計画改定における春期の利用期の取り扱いについては、植生保護期と据え置きつつ、遊歩道の再整備による施設ハード面や利用ルールといったソフト面の改善を図ることで、春期の大ループ利用機会創出を目指す方向性にて次回協議会へ提案することとする。（南出）

利用適正化計画の改定スケジュールについて

- 改定時期に関して、昨年度のあり方協議会で示したスケジュールを踏襲し、2021年より改定との案を示した。ただ、秋期の利用期改定のみであれば、2020年に前倒しして改定することも可能だと考えているが、現場運用に支障は生じないか。（竹原）
- 秋期の利用期改定のみであれば、2020年シーズンに適用を開始しても利用者と現場には大きな影響や混乱は生じない。（秋葉）
- ✓ 次回協議会の結果を踏まえた上で、環境省内でも2020年シーズンから新計画を開始できるか、公告・施行のスケジュールを検討したい。（竹原）
- ✓ 利用期の変更に伴う各種準備作業のスケジュールを考慮し、会議スケジュールを予定より早期に調整するよう検討したい。（渡邊）
- ✓ 本会議での議論結果を事務局で整理し、次回協議会に改定の方向性を提案することとする。（南出）

4) その他（●：意見、✓：まとめ）

- 利用適正化計画の改定にあたっては、ツアー枠の見直しといったヒグマ活動期の運用に関連する項目の見直しも行うべきである。当日申込のツアー参加料金の値上げについて、引き続き協議していきたい。（若月）
- 仮にヒグマ活動期の運用に関連する項目の点検と改定も同時に行うのであれば、ガイド協議会や登録引率者代表としての統一意見が必要となる。他の協議トピックと併せ、事務局・引率者代表・知床財団の三者で話し合いの場を持ちたいと考えている。（秋葉）

以上